

J R 四国労組ニュース

2025年2月28日（No.20／1終） 発行責任者／大谷 清 編集責任者／和田 庄平

「仮設足場からのチェーン垂下」について

2月19日に高德線中野町架道橋（栗林公園北口駅・栗林駅間）において、塗替塗装工事における仮設足場からチェーンが垂下する事象が確認された。

本部はこの事象に対し、2月20日付発第54号「高德線中野町架道橋塗替塗装工事における仮設足場からのチェーン垂下について」申し入れを行い、会社より以下のとおり回答があった。

1. 今回の事故をどのように受け止めているのか会社の考え方を明らかにされたい。

今回の事故は、通行中の車両を損傷させるとともに、通行された皆さまにご迷惑をおかけした重大な事象であったと認識しています。今後、同種事故を発生させないよう、工事における安全管理の徹底に努めたいと考えています。

2. 橋梁からチェーンが垂下した原因について明らかにされたい。

仮設足場に使用していたチェーン端部の固定が不十分であったため、列車通過時の振動等によりチェーン端部の固定が緩み、足場板のすき間からチェーンが垂下したと考えられます。

3. 再発防止と今後の対策について明らかにされたい。

事故発生後に緊急事故防止会議を開催し、チェーン端部の固定方法の変更、および作業終了時の現場確認を徹底するよう指導しました。

今後の対策としましては、JR四国による安全パトロールにおいて、チェーン端部の固定が確実にできているかを重点的に確認します。また、本四塗装工業（株）においても現場点検を強化するとともに、安全会議や新規入場者教育において、作業中に想定されるリスクや当事象を含めた過去の事故事例について繰り返し教育し、対策の風化防止に引き続き努めてまいります。

幸い、この事象によって、けが人等の被害はなかったが、通行中の車両を傷つけたこと及び幹線国道との交差点という地点であることを踏まえるとを一步間違えれば人命に関わる事象であった。

JR四国労組は、安全・安定輸送の確立がすべてに優先し、尊い命を預かる私たちの重大な使命であることを強く訴えるとともに、類似事象が頻繁に発生している現状を踏まえ、その背後要因等を明らかにすべく労使協議を一層強化し、引き続き会社に対する「安全へのチェック機能」強化の運動を展開する。

以 上